

2 清掃事業の沿革

(2) し尿処理

ア し尿収集運搬制度のあゆみ

本市のし尿処理は、明治 22 年 6 月 1 日市制施行以降、明治 33 年 4 月「汚物掃除法」施行時についても、江戸時代後期と同様に市民と農家の自由契約により、農家は田畑の肥料として、自家処理できない市街地のし尿をひき取り、市民はその対価として、金品や野菜を受け取るという旧来の方法で行われてきたが、農家と市民の需要と供給のバランスも適当に取れ、収集周期、収集作業面等についての保健衛生面での配慮が必要とされただけであった。自由契約以外のし尿収集としては、大正元年には市街地の公設便所(公衆便所)28ヶ所で、年間 52.4 石(9.4kl)を直営で収集し、農家へ売り渡していた。

昭和 5 年 5 月「汚物掃除法」の一部改正がなされ、し尿の収集・運搬・処理は市町村の義務とされた。これに伴い、本市でも原則的にはし尿の自由収集を禁止し、市街地を 6 区に分割・調整し、し尿収集区域として直営で月 1 回収集を開始した結果、年間し尿収集量は昭和 5 年で 120.3 石(21.7kl)と増加した。

当時のし尿・塵芥処理の担当課、係は衛生課清掃係で掃除監督長(1 名)、掃除監督(3 名)、掃除人夫(延 13,884 名)の陣容で公衆便所掃除、汚物搬出、溝渠掃除を行っている。

その後、昭和 20 年ごろまで、人口増に比例しし尿収集が年々増加してきた。そこで、収集区域を見直し、また月 2 回収集を実施、さらに周辺地域にし尿貯留槽を設置することで対応していった。そして、搬出先も市外の農村地区へと広がっていった。

戦後、本市でも清掃事業は環境衛生の面からばかりでなく、都市の美観という見地から市民生活に直結している市政の重要施策に揚げ、近代化に着手した。

し尿処理事業についても昭和 29 年 7 月「清掃法」制定に伴い、清掃条例を全文改正し、従来、「汚物掃除法」では専従のし尿収集者は法的には存在していなかったものも、実態に即した様に、汚物取扱業(し尿)の許可を与え、直営を補完させることになった。

昭和 30 年度の汚物取扱業(し尿)の許可業者は 19 社であったが、昭和 40 年 6 月「清掃法」の一部改正に伴い許可制から委託制への切替えの行政指導が全国的に行われ、本市においても委託制への切替え第 1 段階として昭和 42 年 8 月から直営・業者の区域割制を実施し、業者を統合するよう行政指導し、2 社に企業合同させたが、種々の要因により委託制への切替えは実現しなかった。企業合同後、許可業者は業界の再編成、昭和 44 年 2 月から昭和 50 年 5 月の周辺市町村合併等で、9 社になった。さらにその後、平成 16 年 4 月に一部業者の再編(し尿部門の集約化)により 6 社となり、平成 17 年 3 月には御津・灘崎両町との合併で、許可業者数は 8 社(そのうちの 1 社に旭川中部衛生施設組合が御津地区を委託)となり、平成 19 年 1 月には建部・瀬戸両町との合併で、許可業者数は 9 社(そのうちの 2 社に旭川中部衛生施設組合が御津・建部地区を委託)となった。

イ し尿の処理方法と施設

収集したし尿の処理については、昭和 20 年代後半頃から、化学肥料の普及により、必

然的に農地還元量も減少し、人口の都市集中傾向による排出し尿量の増加と相まってその処理に苦慮してきたため、昭和30年3月からし尿海洋投棄を実施した。

し尿海洋投棄については、昭和48年3月までは瀬戸内海の播磨海域へ投棄し、以後、昭和54年8月までは和歌山県沖のB、C海域への外洋投棄を行った。またこの間、終末処理施設についても、昭和41年5月から昭和43年3月に神崎処理場(70kl/日)、清鶴苑(50kl/日)、旭西浄化センター(110kl/日)、一宮処理場(100kl/日)があいついで建設され、処理能力アップが図られた。さらに昭和49年3月、神崎処理場を70kl/日から100kl/日へ増設し、昭和54年3月、一宮処理場(以後、一宮浄化センターに名称変更)に200kl/日の新施設が増設され、100パーセントの施設処理が確保できたので、昭和54年8月で海洋投棄を廃止した。

この後、昭和60年11月には老朽化した清鶴苑が80kl/日の近代的な施設として更新されるとともに、離島である犬島に新たに犬島浄化センター(0.35kl/日)を建設、昭和62年7月から供用を開始し、平成9年3月には老朽化した神崎処理場が180kl/日の施設として更新された。

し尿処理量については、生し尿は昭和50年代前半まで漸増し、以降は横ばいから減少に転じているが、浄化槽汚泥は住民の水洗化指向による浄化槽設置基数の大幅な伸びにあわせて急激に増加した。この浄化槽汚泥の処理に対処する一方、し尿処理施設への負荷を軽減させ、施設の円滑な運転を確保するため、移動脱水車による「固液分離」業務を開始、昭和54年6月から現場における脱水、昭和57年1月から当新田貯留槽における脱水処理を行ってきた。

さらに、昭和60年3月には脱離液処理施設として当新田浄化センター(70kl/日)を建設した。

ウ し尿処理手数料の徴収

本市のし尿処理料金体系については、「清掃法」施行に伴い、昭和29年10月361→25円のし尿処理手数料を制定し、昭和40年4月、昭和46年8月、昭和49年4月、昭和52年2月と従量制による料金改訂を行ってきたが、昭和52年12月に岡山市廃棄物処理懇談会から「従来の従量制料金は理論上は合理的であるが、料金問題にからむ市民の苦情があり、これを解消させるためには、この際、発想の転換をはかり、料金制度を定額制に移行すべきである。また、定額制料金においては、定期収集が前提条件であり、料金体系及びサービスの向上の面から、原則として1ヶ月1回の収集を義務づけるとともに、定期収集体制を確立させる必要がある。」との意見書が提出され、種々の角度から検討した結果、定額制導入を決定しこれに移行する前段階として、昭和53年2月に全市を対象として「し尿処理実態調査」を実施し、昭和55年7月「し尿収集区域の調整」(業者区域のみ)を行い、昭和55年10月1日し尿料金制度に定額制を導入し、併せて定期収集制度を実施した。その後、平成元年4月1日(消費税導入3%)、平成4年4月1日、平成6年4月1日及び平成9年4月1日(消費税率改訂5%)にそれぞれ手数料を改定し現在に至っている。

なお、直営収集区域のし尿処理手数料の徴収については、市職員が各戸集金を行っていたが、議会からの指摘や市民からの要請に応えるため、昭和60年4月から、2ヶ月を1

期とする自主納付制に変更(一部を除く)、また、昭和 61 年 4 月から口座振替を導入し、集金経費の削減と市民サービスの向上につとめている。

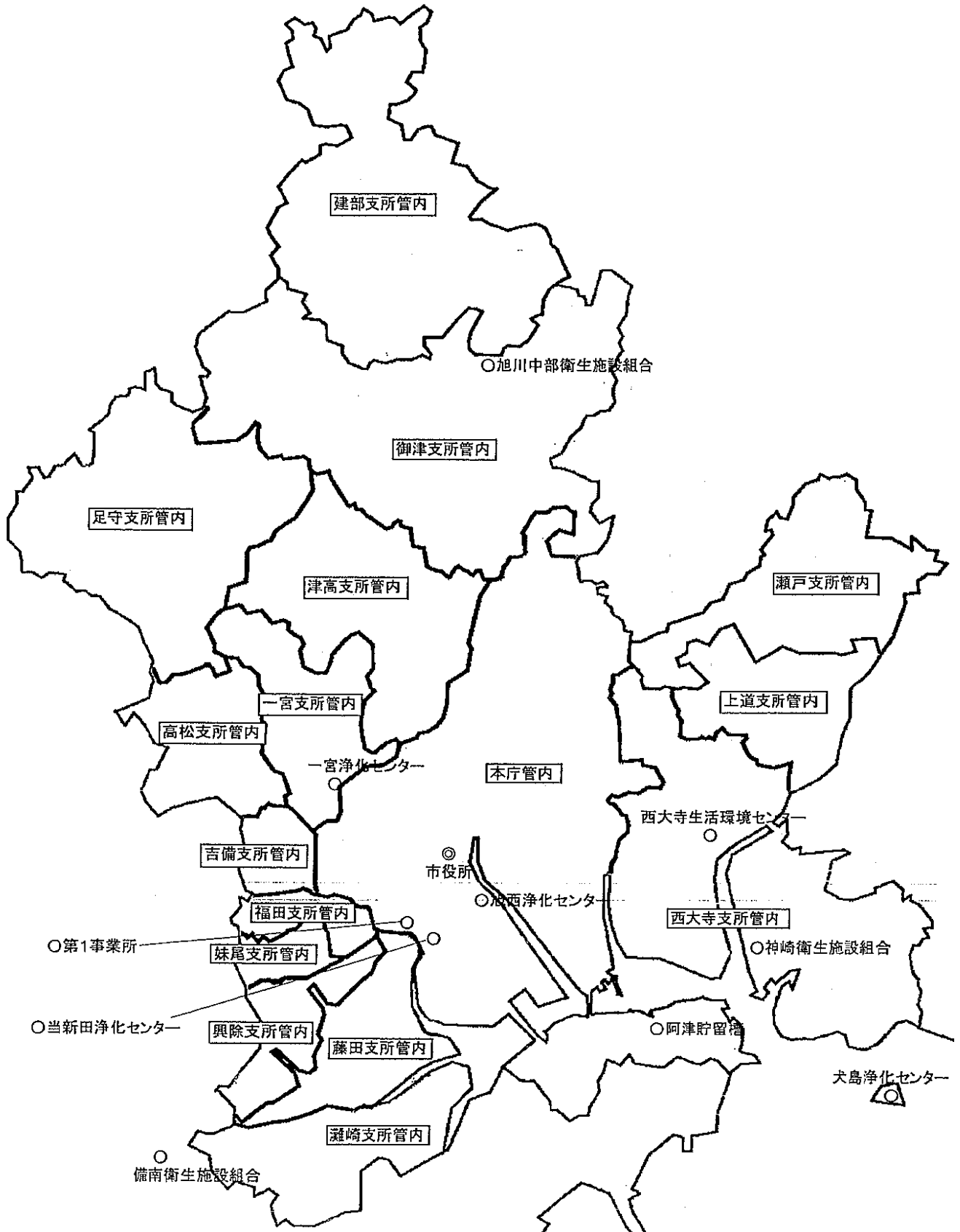
エ 合理化事業

公共下水道等の整備により、し尿処理業者の業務量が減少していく中、経営規模の適正化とし尿処理業務の安定等を目的とする「下水道の整備等に伴う一般廃棄物処理業等の合理化に関する特別措置法」(以下「合理化措置法」という。)の趣旨を尊重し、昭和 51 年以降、市内 9 つのし尿処理許可業者全てが加入する協同組合岡山市環境整備協会(以下「環境整備協会」という。)を窓口協議し、覚書等を結び、影響を受けている業者及び環境整備協会に対して「代替業務の提供による支援」を実施してきた。

平成 14 年度包括外部監査の結果報告書の指摘を受け、平成 15 年 7 月 31 日に岡山市総合政策審議会岡山市一般廃棄物処理業等合理化専門委員会が設置され、「平成 16 年度以降の合理化事業のあり方」と「これまでの合理化事業の清算」の二つに分けて審議され、提言書等が提出された。これらの提言書等を受けて環境整備協会と合理化事業計画策定及び過去の清算に向けた交渉を行い、協定書を結び、合理化措置法に基づく「岡山市一般廃棄物処理業合理化事業計画」(以下「合理化事業計画」という。)を策定し、県の承認を平成 16 年 3 月 25 日に受けた。この計画により、収集車両の計画的な減車と対象業者に対して代替業務の提供による合理化事業を実施することとなり、許可台数は、50 台(平成 11 年の暫定減車 4 台を含む。)から 17 台減車し、33 台体制となった。

なお、業界の再編により、平成 16 年 4 月 1 日からし尿処理の許可業者は 9 社から 6 社(合併前の旧岡山市)となり、合理化事業計画に基づき対象となる 2 社に対して代替業務の提供による合理化事業を実施している。その中で、平成 17 年度に許可車両を 1 台減車し、32 台体制となった。

1 尿関係施設所在地



2 清掃施設等一覧表

施設等		所在地	電話番号	備考
本庁	環境事業課	700-8544 岡山市大供一丁目1-1	(086) 803-1000 (代表)	
	産業廃棄物対策課			
	環境施設課			
支所	西大寺支所衛生課一 西大寺生活環境センター	704-8113 岡山市西大寺上二丁目7-31	(086) 944-5034	ごみ・し尿収集
し尿関係施設	第1事業所	700-0956 岡山市当新田485-1	(086) 243-2771	し尿収集
	一宮浄化センター	701-1211 岡山市一宮217	(086) 284-0080	下水道局所管
	旭西浄化センター	700-0851 岡山市七日市西町6-10	(086) 225-0646	
	神崎衛生施設組合	704-8138 岡山市神崎町2676	(086) 946-8002	構成 [岡山市・瀬戸内市]
	備南衛生施設組合 (清鶴苑)	709-1121 倉敷市茶屋町1919	(086) 428-1261	構成 [岡山市・倉敷市 ・早島町]
	旭川中部衛生施設組合 (旭清苑)	709-2131 岡山市御津鹿瀬650	(0867) 24-1503	構成 [岡山市・吉備中央町 ・久米南町]
	当新田浄化センター	700-0956 岡山市当新田488-4	/	浄化槽汚泥専用
	犬島浄化センター	704-8153 岡山市犬島179	/	
	阿津貯留槽	702-8015 岡山市阿津大河原尻地先	/	
ごみ関係施設	北事業所	700-0066 岡山市野殿西町1-5	(086) 214-5841	ごみ収集
	中事業所	700-0956 岡山市当新田486-1	(086) 241-6185	
	南事業所	700-0942 岡山市豊成一丁目4-1	(086) 231-4722	
	粗大事業所	700-0066 岡山市野殿西町428-6	(086) 898-1412	粗大ごみ収集・受入
	資源事業所	700-0956 岡山市当新田433-1	(086) 244-0971	資源化物収集
	水路清掃事業所	700-0956 岡山市当新田486-1	(086) 805-3075	道路下水清掃
	新保資源選別所	700-0945 岡山市新保687-3	(086) 234-9550	資源選別
	灘崎リサイクルセンター	709-1215 岡山市灘崎町片岡2385	/	粗大ごみ 資源化物集積
	東部リサイクルプラザ	704-8122 岡山市西大寺新地453-5	(086) 944-7122	粗大ごみ処理 資源選別・リユース
	東部クリーンセンター	704-8122 岡山市西大寺新地453-5	(086) 944-7071	ごみ焼却
	岡南環境センター	700-0942 岡山市豊成一丁目4-1	(086) 233-7490	
	当新田環境センター	700-0956 岡山市当新田486-1	(086) 246-5145	
	瀬戸クリーンセンター	709-0841 岡山市瀬戸町万富2370-1	(086) 953-2368	ごみ焼却・粗大ごみ処理 資源選別
	御津・加茂川環境施設組合	709-2136 岡山市御津紙工3783	(0867) 26-0633	構成 [岡山市・吉備中央町]
岡山市久米南町衛生施設組合	709-3626 久米郡久米南町上神目316-6	(0867) 22-1294	構成 [岡山市・久米南町]	
山上埋立管理事務所 (山上最終処分場)	701-1526 岡山市山上152	(086) 295-2621		
三手最終処分場	701-1353 岡山市三手108-1	/		

5 し尿関係施設

(1)処理施設

施設名(所在地)	能力 (kl/日)	処理方式	建設 年月日	建設費 千円	敷地面積 ㎡	備考
旭西浄化センター (七日市西町6-10)	110	標準活性汚泥方式	昭42.3.31	132,957	51,300	
一宮浄化センター (一宮217)	旧 100	標準脱窒素処理方式	昭43.3.31	179,449	17,492	
	新 200		(平9.改造)	(1,127,850)		
昭54.3.31			昭54.3.31	1,700,000		
神崎衛生施設組合 (神崎町2676)	180	膜分離高負荷生物脱窒素処理 式(生物脱窒処理+膜分離処理)	平9.3.31	6,338,882	17,000	
備南衛生施設組合 (倉敷市茶屋町1919)	80	標準脱窒素処理+凝集沈殿+ オゾン処理+砂ろ過+活性炭吸着 +抗火石浸漬床	昭60.12.20	1,668,231	8,333	
旭川中部衛生施設組合 (御津鹿瀬650)	42	標準脱窒素処理+高度処理	平4.3.31	749,840	13,083	
犬島浄化センター (犬島179)	0.35	生物脱窒(一段)処理+凝集沈殿+ 砂ろ過+活性炭吸着	昭62.3.31	132,842	4,741	
当新田浄化センター (当新田488-4)	70	固液分離処理+生物脱窒素処理	昭60.3.30	141,297	4,654	浄化槽汚泥 処理施設

(2)貯留施設

施設名(所在地)	容量 (kl)	建設 年月日	建設費 千円	敷地面積 ㎡
阿津貯留槽 (阿津大河原尻地先)	108	昭36.9.6	1,340	327.5

光南台地区は、し尿処理施設への搬送距離が遠隔であるため、定期収集の実施と標準作業の確保を図り、収集効率の低下をきたさないよう、貯留槽へ一時保管し、中継車で処理場まで搬送している。

し尿処理の状況

岡山市におけるし尿と浄化槽汚泥の収集処理量は、平成18年度実績で、221,468Kl/年（し尿71,219Kl/年、浄化槽汚泥150,249Kl/年）となっている。御津・灘崎・建部・瀬戸町合併前の旧岡山市区域分は211,417Kl/年（し尿66,348Kl/年、浄化槽汚泥145,069Kl/年）となっている。

旧岡山市区域のし尿については、平成13年度から平成18年度までで19.7%下がっており、減少傾向にある。また、浄化槽汚泥については平成14年度までは増加してきたが、以後は横ばい状況である。

し尿の収集運搬は、市直営と許可業者9社（ただし、御津・建部支所管内は一部事務組合が2業者に委託）で業務にあっており、浄化槽清掃及び浄化槽汚泥の収集運搬については許可業者12社があっている。

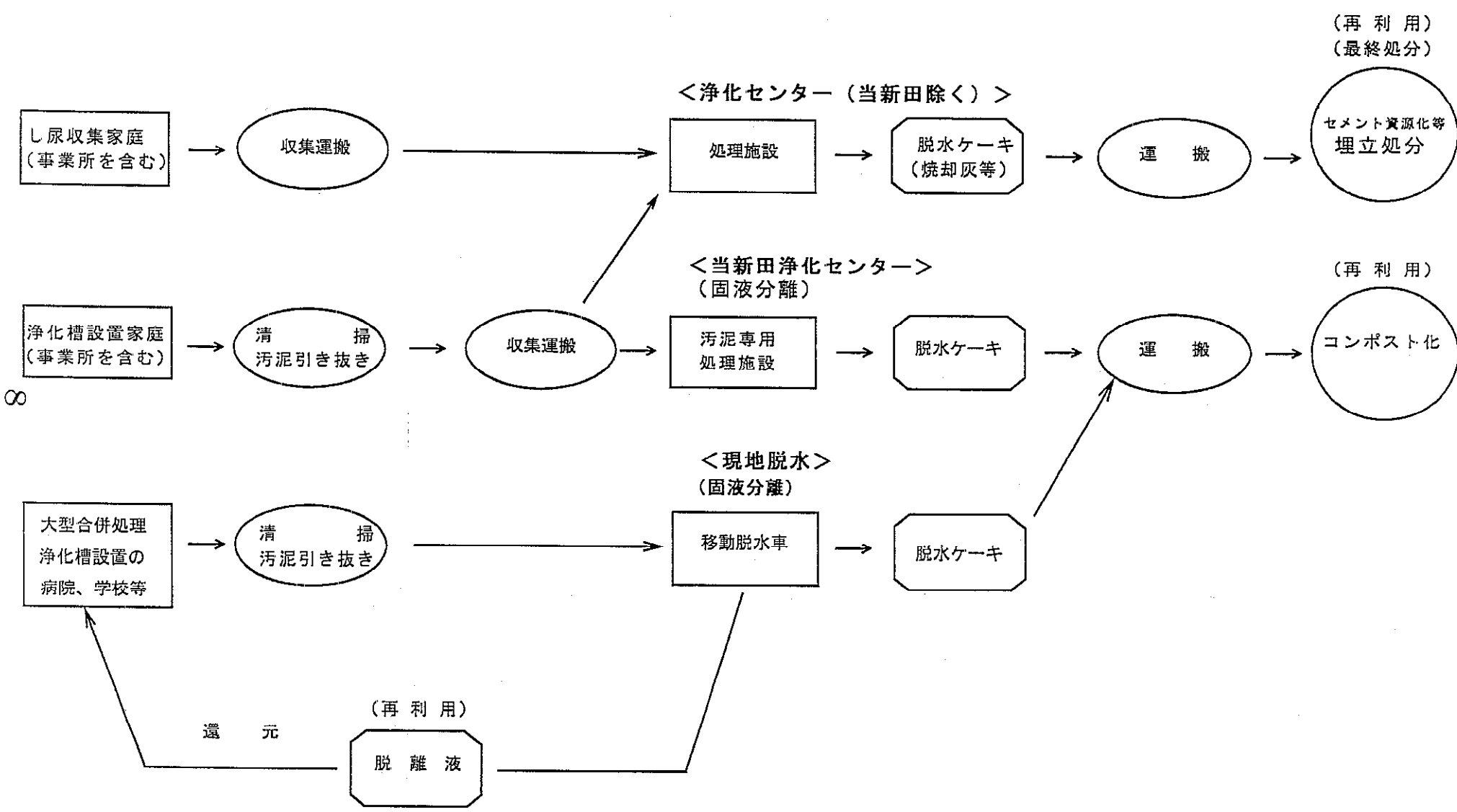
処理については、昭和54年8月に海洋投棄を廃止して以来、一宮浄化センターをはじめとする5か所の処理施設へ計画的に搬入している。離島である犬島には、昭和62年3月に犬島浄化センターを建設し処理を行っている。

また、急増した浄化槽汚泥の円滑な処理を行うため、移動脱水車による現場での固液分離業務、さらに浄化槽汚泥処理専用施設である当新田浄化センターが昭和60年4月から稼働している。

今後は下水道の整備、普及により、し尿の処理量はさらに減少していくと考えられる。また、下水道の供用が開始されていない区域では、市民の水洗化志向と昭和63年度からの家庭用小型合併処理浄化槽の設置補助制度に伴い、小型合併処理浄化槽の設置がされているが、浄化槽汚泥の処理量は全体としてほぼ横ばい状況にあるものと考えられる。

今後とも、し尿と浄化槽汚泥の収集量に応じた適切な処理が必要である。

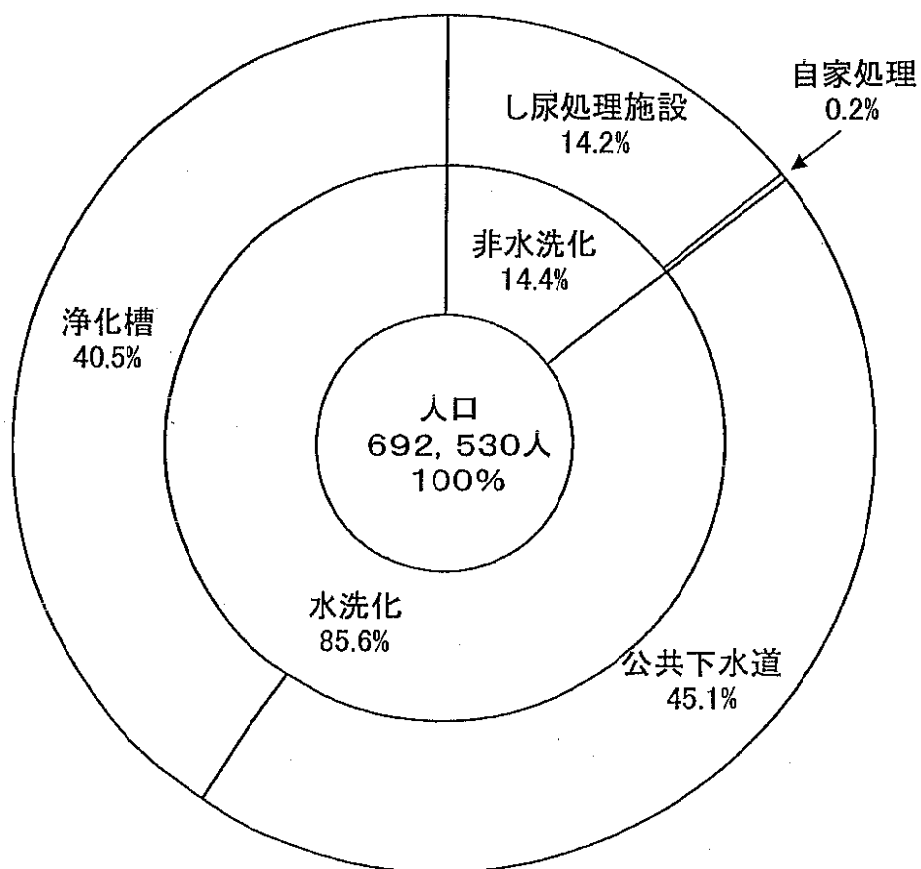
○ 岡山市のし尿(浄化槽汚泥を含む)処理フローシート



○ ㄚ尿处理人口・世帯数

(平成19年3月31日推計)

区分	人口(人)	世帯数(世帯)
行政区域内	692,530	282,997
非水洗化	100,155	40,928
ㄚ尿处理施設	98,538	40,267
自家处理	1,617	661
水洗化	592,375	242,069
公共下水道	312,063	127,522
浄化槽	280,312	114,547



○ L尿収集実績

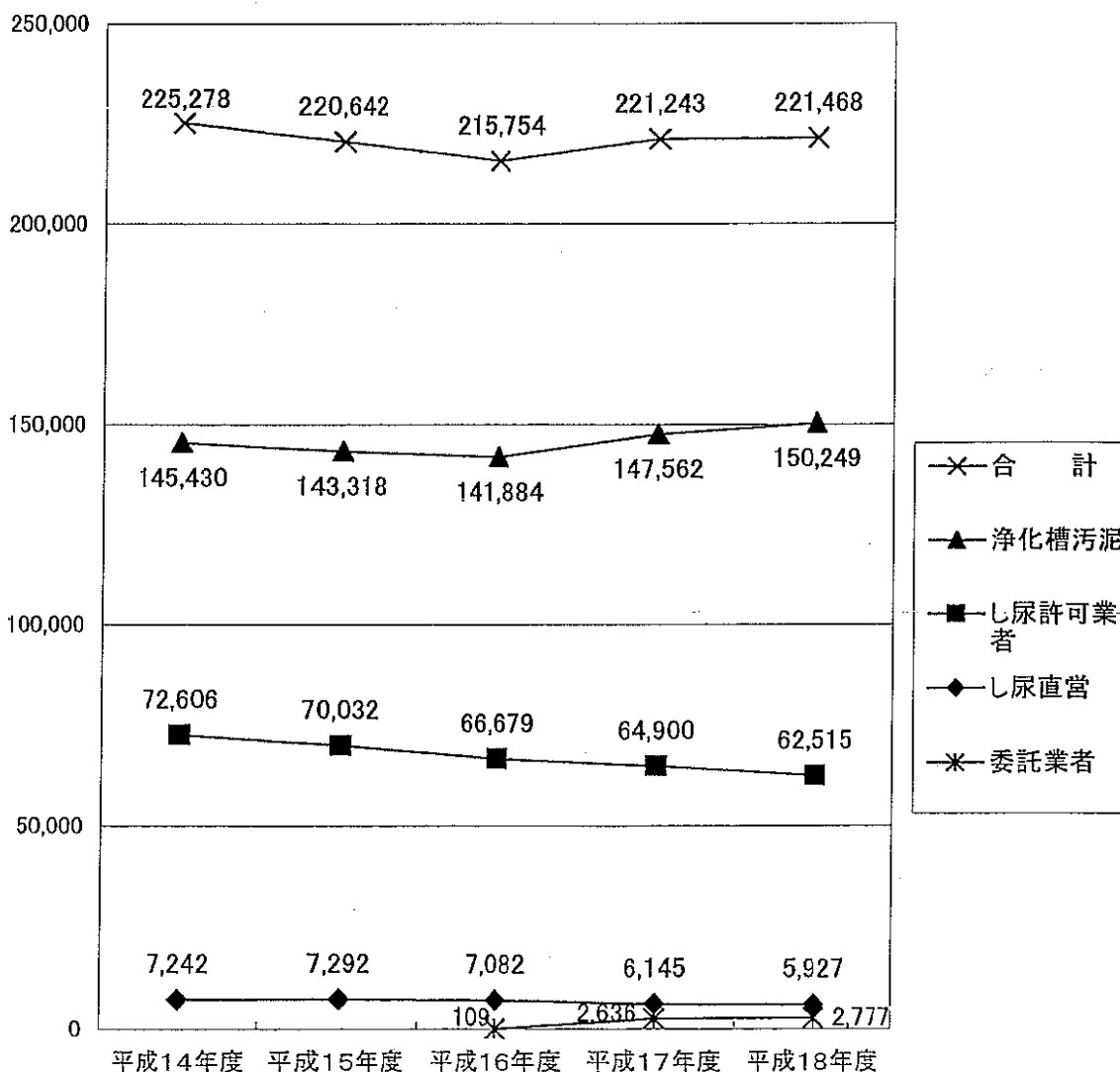
(単位:KI)

区 別		年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
生 し 尿	直 営		7,242	7,292	7,082	6,145	5,927
	許 可 業 者		72,606	70,032	66,679	64,900	62,515
	委 託 業 者		—	—	109	2,636	2,777
	小 計		79,848	77,324	73,870	73,681	71,219
浄 化 槽 汚 泥			145,430	143,318	141,884	147,562	150,249
合 計			225,278	220,642	215,754	221,243	221,468

*平成17年3月22日合併により、合併日から御津・灘崎分を含む。

*平成19年1月22日合併により、合併日から建部・瀬戸分を含む。

○ 直営・業者別収集量の推移



○ 浄化槽設置基数の推移

(単位:基)

区 別	年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
単 独		60,327	59,149	58,704	55,691	55,418
合 併 (小 型 合 併)		18,076 (17,056)	19,914 (18,901)	22,375 (21,392)	24,002 (22,992)	26,057 (25,025)
合 計		78,403	79,063	81,079	79,693	81,475

※小型合併であげた数は、50人以下の小型合併浄化槽の数(合併の内数)である。

参考 合併処理浄化槽設置事業費補助金補助基数

(単位:基)

区 別	年 度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
5 人 槽		415	480	552	562	570
6 人 槽		0	0	0	0	0
7 人 槽		565	563	540	534	492
8 人 槽		1	1	0	0	0
10 人 槽		57	44	46	40	49
11 ~ 50 人 槽		6	8	9	3	6
合 計		1,044	1,096	1,147	1,139	1,117

○ 許可・使用車両 (平成19年4月1日現在)

(し尿の収集・運搬)

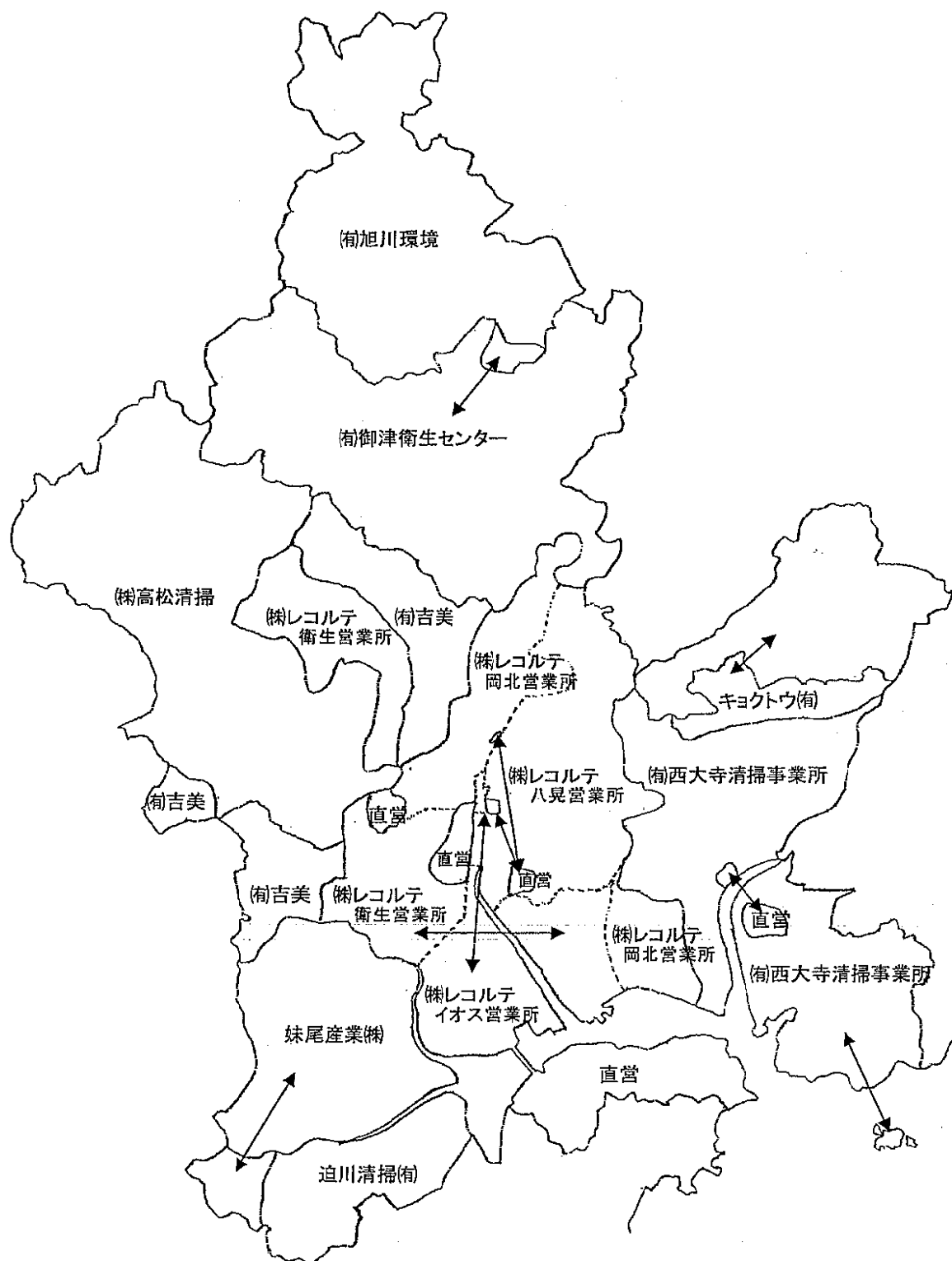
業 者 名	許 可 ・ 使 用 車 両 台 数 (台)							従業者数 (人)	
	2.7 kl	2.8 kl	3.0 kl	3.1 kl	3.5 kl	3.6 kl	計		
1 (株)高松清掃			4				4	10	
2 (有)吉美		1	2				3	25	
3 キョクトウ(有)					1	1	2	10	
4 (有)西大寺清掃事業所	4		2				6	25	
5 妹尾産業(有)	3		1				4	45	
6 (株)レコルテ	3		1	10			14	35	
7 迫川清掃(有)	1						1	6	
8 (有)御津衛生センター	2						2	11	
9 (有)旭川環境	1						1	8	
合 計	0	14	1	10	10	1	1	37	175

*車両は全てバキューム車。

*1~6は許可車両。(3のうち瀬戸地区で使用の3.6kl 1台を除く。)

*7 8 9は主に使用する車両。

し尿収集区域図



許可業者名簿

H20年度

	業 者 名	会社の所在地	許可番号		
			し尿	汚泥	清掃
1	有限会社 岡北産業 代表取締役 市村隆利	岡山市原1534番地の2	-	1	1
2	八晃産業 株式会社 代表取締役 八田 勉	岡山市福吉町31番24号	-	2	2
3	株式会社 イオス 代表取締役 濱 保男	岡山市当新田444番地の7	-	3	3
4	株式会社 衛生センター 代表取締役 八田高志	岡山市当新田443番地の1	-	4	4
5	株式会社 高松清掃 代表取締役 小林美智子	岡山市高松784番地の1	1	5	5
6	有限会社 吉美 代表取締役 石原 恵一	岡山市大内田1367番地の1	2	6	6
7	キョクトウ 有限会社 代表取締役 寺尾邦弘	岡山市瀬戸町瀬戸646番地	3	7	7
8	有限会社 西大寺清掃事業所 代表取締役 中山一夫	岡山市西大寺中野775番地1	4	8	8
9	妹尾産業 有限会社 代表取締役 畑 貞夫	岡山市箕島1306番地の26	5	9	9
10	株式会社 レコルテ 代表取締役 八田 高志	岡山市平井1097番地の18	6	-	-
11	迫川清掃 有限会社 代表取締役 神戸 正義	岡山市灘崎町西高崎62番地	7	10	10
12	有限会社 御津衛生センター 代表取締役 甲元 政利	岡山市御津宇垣1762番地の2	8	11	11
13	有限会社 旭川環境 代表取締役 甲元 勉	岡山市建部町宮地518番地1	9	12	12